

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4078000082
法人名	有限会社 まんてん
事業所名	グループホーム まんてん
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市三潴町草場33-1 (電話) 0942-64-5401

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成21年10月28日	評価確定日	平成21年12月17日

## 【情報提供票より】(平成 21年 10月 15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7.425 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての1階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:4年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(10月 15日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4			
要介護5		要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	56 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤吉内科医院 安本病院 毛利歯科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から7年が経過した。ホームの裏には新しい住宅地ができ、子ども達の声も聞こえてきている。近所の方が“みかん”を持って遊びにきてくれることもあり、ボランティアの方の踊りや大正琴などの披露も、今では、ご利用者の楽しみの一つとなっている。7年の歴史は、着実に地域に密着したホームになってきており、多くの方々に支えて頂きながらの7年であったことも、施設長、職員共に感じておられる。“一人ひとりを大切に 優しい笑顔と温かい心で 人に優しく 自分に厳しく”という理念は、7年の歳月の中で職員の方々に着実に受け継がれ、「ここで(まんてんで)最期まで…」と願う、ご利用者の方々も増えてこられた。馴染みの職員のもとで、気心知れたご利用者やご家族と共に、お互いに支え合いながら共に生活を続けてこられた。ご利用者の心身状況の変化も生じてきているが、ご利用者の役割や楽しみ、外出の意向を、変わらずご利用者ご本人に伺い、意思決定をして頂くように努めている。「ご本人の意向、お気持ちは、ご本人に何う…」ことを大切にしながら、よく笑い、よく話し、美味しい食事を食べながら、毎日を仲良く過ごされているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を踏まえて、職員全員で話し合いを行った。主な取り組み内容は、①ご利用者の意向を聞きながらも、外出の促しを増やしていった。②ご利用者の役割や楽しみを把握し、日々の生活の中で、更に取り入れるように努めてきた。③日々の介護記録のあり方を、更に充実させていった。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	経験の長い職員が多く、施設長や管理者、職員は、自己評価を行うことで日々のケアの取り組みを振り返ることができ、職員一人ひとりのケアの向上につながることを理解されている。各項目について、職員全員で話し合いを行い、施設長がまとめていった。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年より、ご利用者も楽しく参加されている。区長・老人会長・児童民生委員・市担当者・地域包括支援センター職員・地域住民の方、家族会代表の方に参加して頂いている。会議の中では、ホームの防災についての検討や感染対策、外部評価の報告、市役所の実施指導の内容の報告等を行い、ホーム運営の課題について参加者の方々と話し合いを行っている。事情もあり、今年までは3か月に1回の開催であったが、21年9月以降、更に11月に開催をしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	2ヶ月に1回、担当職員がご利用者の生活状況や健康状態などを手紙に書き、ご家族へ送付している。ご家族訪問時(遠方の方にはお電話で…)には、職員が日々の様子や健康状態等を口頭でお伝えし、ケアについての希望や意見を伺うようにしている。ホームの玄関横に要望意見箱を設置するとともに、家族会の中でご家族から意見も作っている。ご家族から意見を頂いた時は、ミーティングの場などで職員全員で検討し、ケアプランなどにも反映させるようにしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	昨年以降、老人会の“だご汁会”にも参加した。老人会の定例会にも参加し、会の方々と意見交換を行うことができた。地域のお祭りへ参加することも定着し、施設長が率先して地域の清掃活動に参加する等、地域活動には積極的に取り組まれている。近所の方が、ホームへ差し入れをして下さったり、ホームの行事に、地域の婦人会や子ども達が歌や舞踊を披露して下さるなど、地域の方との交流は増えてきている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成15年の開設時に作られた理念を大切にしている。前施設長には“地域の中で人間らしさを失わずに人間らしく生きられる生活の場を作りたい”との思いがあり、“一人ひとりを大切に 優しい笑顔と温かい心で 人に優しく 自分に厳しく”という理念が作られている。“地域に根ざしたサービス”と言う内容は理念の中に明示されていないが、パンフレットの文章やホーム内の掲示物には、地域との交流を大切にしたいという思いが表現されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	この5年以上、職員の離職が無く、日々、理念の実践が継続して行われている。毎月のミーティングの中で、日々のケアについて話し合う時間を設けており、施設長や管理者が日々のケアの中で気付いたことは、職員に伝えるようにしている。職員全員がご利用者の気持ちに寄り添い、ご本人の思いを大切にされたケアが実践できるように努めている。職員とご利用者が日常の会話を楽しみながら、職員が自然に介助を行う場面がホームの日常的な風景として見られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや老人会などの行事にご利用者は参加しており、施設長が率先して地域の清掃活動にも参加している。近隣の方がホームへミカンなどの差し入れをして頂いたり、ホームの行事で、地域の婦人会や子ども達が歌や舞踊を披露される等、地域の方との交流が増えている。施設長の念願だった、グループホームや地域福祉についての説明会を、20年末に老人会の寄り合いでお話することができた。今後も、ホームが地域の相談窓口になればと考えられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長や管理者は、自己評価を行うことで日々のケアの取り組みを振り返ることができ、職員一人ひとりのケアの向上につながることを伝え、各項目について職員全員で話し合いを行い、施設長がまとめられた。前回の評価についても、職員全員で話し合いを持ちながら改善計画書を作成し、更なる改善に向けて取り組んできた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年から、3か月に1回、運営推進会議を行っている。昨年外部評価以降、ご利用者も交代で参加されるようになり、「まんてんに来ようになり元気になりました・・」など、ご利用する立場にたった貴重な報告をして頂いている。季節に応じた議題も多く(感染症対策など)、それぞれのお立場から有意義なご意見を頂いている。開催回数に関しても、市役所の方から「2か月に1回の開催を目標にしてください」と言うご意見を頂き、前向きに調整を行ってきた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は、運営推進会議以外に1ヶ月に1回は市の窓口を訪問し、担当者にホームの運営でわからないことを相談したり、ホームの職員が参加できる研修の情報などを頂いている。市担当者は施設長の窓口訪問時の対応や運営推進会議への参加だけでなく、随時ホームにメールで研修の情報を送る等の協力も継続して頂けており、良い連携が保たれている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホーム内に制度に関するパンフレットも準備している。外部の研修を受講し、ホーム内研修の場などで職員全員に説明を行っている。必要と思われるご利用者については説明を行い、家族会の場でも制度の説明を行った。現在、制度を利用している方はおられないが、必要ご利用者については制度の活用につながるよう、今後も支援を行うようになっている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回、担当職員がご利用者の生活状況や健康状態などを手紙に書き、ご家族へ送付している。また、ご家族訪問時に、職員が日々のご様子や健康状態等を口頭でお伝えしている。ご利用者の高齢化とともに、重度化している方もおられ、医療面や健康状態については丁寧な報告に努めている。日々のケアについても、ご家族からも意見を頂けるようにしており、遠方のご家族には担当職員が電話で報告を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員の離職が無く、ご家族とも馴染みの関係となっている。施設長・管理者や職員は、ご家族の訪問時や電話連絡の時に、ホームの運営やご利用者のケアについて希望や意見を伺うようにしている。家族会の中でご家族から意見を頂くこともあり、ご家族から意見を頂いた時は職員全員で検討し、運営に反映させている。ご家族の声が、ホーム運営に反映される環境を整えている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この5年以上、職員の離職は無く、運営者と職員は、お互いに感謝し合い、思いやる気持ちに溢れている。意見交換も活発で、働きやすい環境が保たれている。施設長は、職員の休みの希望を聞いて調整を行ったり、2ヶ月に1回、前施設長も参加しての食事会を続け、職員の親睦を深める場を設けている。管理者は職員の相談窓口となり、日頃の小さな悩みにも個別に対応している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようになっている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	施設長は、職員の採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除することなく、採用を行っている。ホーム運営の中で個々の職員の個性を尊重している。お料理が得意な職員も多く、毎日のお食事作りの場で力を発揮して頂いている。農作業が得意な職員にはホームの菜園作りに取り組んでもらったり、舞踊が得意な職員にはホームの行事の時に披露してもらう等、個々の職員が生き生きと仕事ができるようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念の中にも、人権に関する内容が込められており、日々、職員の方々は実践を続けている。施設長は、月に1回のミーティング時に、理念と合わせて、ご利用者の人権について職員に話し、職員同士で考える場を設けている。施設長や管理者は、日々のケアの中の職員の言動で気付いたことは、職員に伝えるようにしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回のミーティングに合わせて、看護師が講師になり医療に関する勉強会などを行っている。施設長や管理者が外部研修に参加した時は、ホーム内で伝達研修を行っている。施設長は内部研修だけでは、得られる知識に限りがあるため、なるべく外部研修に参加してほしいと考えられている。個々の職員の育成計画の作成までには至っていないが、昨年に比べると、職員の外部研修の参加は増えてきている。	○	各職員の学習意欲はあり、外部研修への参加も増えてきている。施設長は、今後も引き続き、外部研修の予定を把握しておき、職員全員が、年に1回は外部研修に参加できるようにしたいと考えられている。職員個別の育成計画の作成も含めて、今後の取り組みに期待していきたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長や管理者、職員はグループホーム協議会の勉強会に参加しており、勉強会を通じて他施設の職員との交流を図ったり情報交換を行っている。現在、施設長は管理者間での施設の相互訪問や交流会に参加できているが、職員を主とした交流を増やしていきたいと考えられている。	○	施設長は、今後も引き続き、近隣のホームの職員間の交流や、相互見学等を行いたいと考えられている。職員同士の交流が広がり、意見交換を行っていく中で、お互いの質の向上につながっていくことを期待していきたい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、施設長と管理者で家庭訪問を行い、入居される前から馴染みの関係作りに取り組んでいる。入居に不安を感じておられるご利用者には、契約後ご家族の協力をいただきながら、まずは短時間の通所から利用を始めて頂き、徐々にホームで過ごす時間を延ばす対応を行った。それぞれのご利用者に応じ、負担なくホームでの生活に馴染んで頂けるよう働きかけを行っている。新しいご利用者には、施設長と管理者が主となって関わりを持ち職員へ情報提供を行うことで、ご利用者への対応の統一を図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ご利用者との日々の生活を通して、ご利用者から野菜の作り方や昔ながらの料理の作り方、今は使うことがなくなった炭アイロンなどの生活用品の使い方や昔からの野菜の呼び名などを教えていただいている。職員に元気がない時は、体調を心配して下さり、日々職員へ「ありがとう」と言って下さるご利用者の笑顔と感謝の言葉から、職員は励まされており、日々の介護の場面一つ一つから多くの学びを頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご利用者とご家族から、どのようにホームで暮らしていきたいかご希望を伺い、入居後も、ご家族の訪問時にお話を伺う機会を設けている。日々の活動を通して、ご本人が興味を示されるものは何か、ご本人のご希望に沿った支援ができていないかを確認し、言葉での表現が難しい方には、表情や行動からご本人の気持ちを汲み取る努力を続けている。ご本人とご家族と一緒に考えていく取り組みを行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の会議で、担当職員を中心に職員間で計画についての話し合いを行い、その内容を計画作成担当者がまとめている。ご利用者の意向は日々の会話や活動を通して職員が汲み取るようにしている。ご家族の面会時などに意向を確認し、一緒にプランを考えるようにしている。課題・目標には“地域で暮らす”という視点が盛り込まれており、食事、洗濯、買い物など、ご利用者の生活に応じた計画が作られている。今後は、3表の日課表なども活用されながら、暮らし全体が見える計画作りも期待していきたい。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の個別記録と朝夕の申し送りの中で、日々の小さな変化も職員同士で共有ができています。月に1回のミーティングの中では、全ご利用者のプランの見直しを職員全員で行っており、必要時は計画の変更を行っている。日々のケアの中で、ご利用者からの希望の把握に努め、ご家族に報告をしながら、その時のご利用者の状態に応じた計画の変更に取り組まれている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日の健康管理の中で、小さな体調の変化などは医師に報告し、早期発見、早期治療に努めており、ご利用者の希望でもある、ホームの中で安心した生活ができるように心がけている。通院の介助や馴染みの店への外出支援、お墓参りに職員が同行するなど、個々の希望に応じた柔軟な対応を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しても、ご希望を大切にしているが、往診をして頂けることもあり、全てのご利用者がホームの協力医療機関へ変更されている。整形外科などに受診する場合は、職員が受診に付き添い医師への報告を行っている。体調の変容があった時は、ホームの看護師が主治医へ電話で相談し指示を頂く等、病気の早期発見・早期治療につながるよう努めている。21年12月からは、訪問看護の利用も行う予定になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から、終末期の方針について、ご家族・ご利用者へ意向を確認しており、「ここで最期まで・・・」と願うご利用者もおられる。ご家族の面会時や家族会の後などに個別に話す機会を設け、ご家族の意向も確認するようにしている。これまでにホームで看取りを行ったことはないが、内部研修で、ホームの看護師が医療面の研修を行う等、ご本人やご家族の意向に沿って終末期のケアが行える体制を整えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者が馴染まれているとの理由から、ご家族へ了解をいただいた上で、ご利用者を下の名前でお呼びすることがあるが、職員はご利用者へ尊敬の念を持って接することができる。排泄ケア等の誘導の声かけや介助の時は、言葉遣いやプライバシーの確保に十分に配慮しており、ご利用者の自尊心を傷つけないように取り組んでいる。また、個人情報を書かれた書類は、鍵のかかる場所に保管する等、個人情報の取り扱いには職員全員で細心の注意を払っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームに大まかな日課はあるが、それぞれのご利用者のペースで生活して頂けるように支援している。職員は、毎日、今日一日をどのように過ごすかをご利用者に決めていただき、それぞれのご利用者がその日の気分に応じて、職員と一緒に買い物に出かけたり、部屋でゆっくりと編み物を行う等して過ごされている。意向を表すことが難しいご利用者には、職員から声をかけ、ご利用者の表情や何気ない言葉からご利用者の意向を汲み取る努力を続けている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は、ご利用者の希望を取り入れながら職員が立てており、ホームで収穫できた野菜や旬のものを取り入れながら“水芋のしぎ焼き”や“カンコロの煮物”といった、ご利用者の馴染みの料理が作られている。ご利用者は、調理の下ごしらえやテーブル拭きなど、できる事に取り組みながら食事作りに参加されている。食事中は、職員も一緒にテーブルに着いて食事の支援を行っている。周囲のご利用者との会話を通して、それぞれのご利用者に食事を楽しんでいただけるよう支援している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、13:30から15:30を入浴時間と決めているが、ご利用者の希望や体調に応じながら、入浴時間以外の時間にも入浴の対応を行っている。毎日、ご利用者に入浴剤を選んでいただくなど、入浴を楽しめる工夫を行っている。入浴を好まないご利用者には、時間を置いて改めてお誘いする等、ご利用者のお気持ちに沿って気持ちよく入浴していただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	紙モップを使った廊下の掃除やカレンダーの日めくり等、それぞれのご利用者ができていることに取り組みながら、役割を担われている。職員は、ご利用者に必ず「ありがとうございます」と感謝の言葉を伝えることで、役割に取り組むことがご利用者の生活の張りとなるように働きかけている。また、ご利用者はリビングや居室などそれぞれの場所で、ぬり絵や計算練習、趣味の編み物といった楽しみごとに取り組みされており、職員は、ご利用者にいつでも楽しんで頂けるように、常時道具を準備している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームでは、ご利用者の希望や体調に応じながら、ホーム周辺の散歩に出かけたり、車に乗って買い物に出かけるなどして、日頃からご利用者に外出を楽しんで頂いている。また、藤まつり見物など、季節に応じた外出も行っている。ホーム長が率先して、それぞれのご利用者の希望に応じた外出支援に取り組まれており、ご利用者の外出の頻度は以前と比べて増えている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜7時から朝7時30分までは施錠しているが、日中は玄関や勝手口に鍵をかけることはなく、自由に出入りが行える。玄関にはチャイムが設置されているが、職員の見守りが手薄になる入浴の時間のみ作動させるようにしており、日頃は使わない。職員は、日頃から立ち位置を工夫したり、職員同士で声を掛け合いながら、ご利用者の見守りを行っている。また、ご利用者一人での外出があった時は、あらかじめ近隣の方々へご連絡頂くよう協力依頼を行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っており、ホームの第一避難場所として場所を提供いただいている隣家の方も訓練に参加された。また、今年の11月には、夜間を想定した避難訓練を行う予定である。あらかじめ、近隣の方に災害時の協力依頼を行っており、協力体制は整えられている。災害時に備えた飲料水や非常食等の備蓄については、物品の検討している最中で、まだ準備はできていない。	○	運営推進会議で意見を頂くなどして、備蓄の具体的な品目や量の検討され、準備が進められるとともに、隣家の方だけでなく、より多くの近隣住民の方に訓練に参加いただくなど、災害に備えた対策が今後もさらに充実していくことに期待していきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、ホームの看護師が定期的に確認しており、品数や塩分量などの助言を行い随時改善が図られている。また、協力医より、それぞれのご利用者に応じた摂取カロリーや水分摂取量などの指導を受けている。それぞれのご利用者の食事や水分の摂取量は把握されており、食事が少ないご利用者には、ご利用者が好まれる食品を準備し、負担なく摂取して頂けるよう働きかけている。ご利用者の咀嚼や嚥下の能力に応じて食事形態を変え、ご利用者に負担なく摂取していただけるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはさりげなくコスモスの花が飾られており、ホームの中においても季節感が感じられるよう工夫されている。また、リビングにはソファや畳のスペースがあり、ご利用者が思い思いの場所で過ごして頂けるよう工夫されている。ご利用者の身体状況に対応し、車いすでもホーム内を安全に移動できるよう、職員全員で話し合いながら、ホーム内の物品や家具の整理を行った。また、ホームの玄関などにスロープを設置した。ホームの中の至るところに自然の光が取り込まれるようになっているが、カーテン等でこまめに光の調節が行われており、光の強さにも十分配慮がなされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやカーテン、照明はホームの備え付けであるが、入居時にはご家族に協力していただき、自宅で使っていた布団やまくら、タンスや使い慣れたお茶わんなど、自宅で愛用されていた馴染みの物を持ってきて頂いている。入居後も、ご家族とご利用者に相談しながら、ご家族の写真を持ってきていただくなど、ご利用者が居心地よく居室で過ごして頂けるように工夫が続けられている。また、それぞれのご利用者の居室には、ホームでの活動を通してご利用者が作られた作品が飾られている。		